

	種 類	一 般 形	意 味	参照頁	
非 実 行 ス テ ー ト メ ン ト	DIMENSION文	DIMENSION $V_1(i_1), V_2(i_2), \dots, V_n(i_n)$	$V_1(i_1), V_2(i_2), \dots, V_n(i_n)$ は配列宣言子で、配列、その次元、大きさを定義し、記憶場所を確保する。 例・DIMENSION A(5), B(10,10)	5	
	COMMON文	COMMON $a_1, a_2, \dots, a_n$	$a_1, a_2, \dots, a_n$ は、変数名、配列名、配列宣言子の並びで、プログラム単位間で記憶場所を共有させる。例・COMMON P,Q,X(5),Y(3,3)	39	
		COMMON $/x_1/a_1/ \dots /x_n/a_n$	共通領域にとる変数の集まりに対して、名前をつける方法である。	39	
	EQUIVALENCE文	EQUIVALENCE ( $K_1$ ), ( $K_2$ ), ..., ( $K_n$ )	記憶場所を2つ以上の要素で共有させるものである。 例・EQUIVALENCE (A, B, C)	41	
	EXTERNAL文	EXTERNAL $V_1, V_2, \dots, V_n$	名前を外部手続き名である旨、宣言する。例・EXTERNAL SIN, COS	39	
	型 宣 言 文	INTEGER $V_1, V_2, \dots, V_n$	変数を整数変数として宣言する。例・INTEGER ALPHA, BETA	3	
		REAL $V_1, V_2, \dots, V_n$	“ 実変数 ” 例・REAL MAX		
		DOUBLE PRECISION $V_1, V_2, \dots, V_n$	変数を2倍精度変数として宣言する。 例・DOUBLE PRECISION X, Y, L(5,5)	4	
		COMPLEX $V_1, V_2, \dots, V_n$	変数を複素変数として宣言する。例・COMPLEX A, B, T(10,10), D		
		LOGICAL $V_1, V_2, \dots, V_n$	変数を論理変数として宣言する。例・LOGICAL M(8), N, LL		
DATA文	DATA $k_1/d_1/ \dots /k_n/d_n/$	変数に初期値を与えるためのものである。	43		
FORMAT文	FORMAT( $q_1 t_1 z_1 t_1 z_2 \dots t_n z_n q_2$ )	$q_1, q_2$ はいくつかの斜線または空で、 $t_1, t_2, \dots, t_n$ は欄記述子か欄記述群であり、 $z_1, \dots, z_n$ は欄区切りである。 例・FORMAT (14, 5X, 2E10.3/F10.5)	25		
非 ラ ム 定 義 文	関 数	$f(a_1, a_2, \dots, a_n) = e$	$f$ は関数名であり、 $a_1, a_2, \dots, a_n$ は、仮引数(dummy argument)で、たがいに異なった変数名である。 $e$ は算術式であり、1ステートメントで記述できるものでなければならない。このように定義された関数は、式の中に書くことにより引用される。引用する場合の実引数(actual argument)は、対応する仮引数と型が同じなら式でもよい。 例・ $F(X, Y, Z) = (X * * 3 + Z * * 3) / (X + Y + Z)$	33	
	サブルーチン文	SUBROUTINE name あるいは、SUBROUTINE name ( $a_1, a_2, \dots, a_n$ )	nameはサブルーチンの名前であり、 $a_1, a_2, \dots, a_n$ は仮引数(dummy argument)で、変数名、配列名である。 CALLステートメントによりよびだされて実行され、RETURNステートメントにより戻る。ENDステートメントで記述を終了する。 例・SUBROUTINE SUB, SUBROUTINE SUB1(X, Y, Z)	36	
	関 数 文	FUNCTION $f(a_1, a_2, \dots, a_n)$	$f$ はこのサブプログラムの名前であり、 $a_1, a_2, \dots, a_n$ は仮引数(dummy argument)で、変数名、配列名である。このように定義された関数は、式の中に書くことにより引用される。引用する場合の実引数(actual argument)は、対応する仮引数と型が一致していれば、定数、変数、配列要素、配列名、算術式を書くことができる。 引用されると関数値が計算され、RETURNステートメントにより戻る。 END行で記述を終了する。例・FUNCTION F(X, Y)	34	
	関 数 文	INTEGER FUNCTION $f(a_1, a_2, \dots, a_n)$ REAL FUNCTION $f(a_1, a_2, \dots, a_n)$ DOUBLE PRECISION FUNCTION $f(a_1, a_2, \dots, a_n)$ COMPLEX FUNCTION $f(a_1, a_2, \dots, a_n)$ LOGICAL FUNCTION $f(a_1, a_2, \dots, a_n)$	整数型のFUNCTIONサブプログラムであることを示す。 実数型 “ 2倍精度型 “ 複素数型 “ 論理型 “	例 INTEGER FUNCTION F(X, Y) REAL FUNCTION A(P, Q, R, S) DOUBLE PRECISION FUNCTION AL(X, Y, Z) COMPLEX FUNCTION X(ABC) LOGICAL FUNCTION P(X)	34
	BLOCK DATA文	BLOCK DATA	COMMON領域に初期値を与えるためのものである。	44	
	END行	END	プログラムの記述を終了する。		